

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成） タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 （ 連携大学 名 ）	秋田大学（計2大学） （弘前大学）
事 業 名	Easy-access な次世代型プレシジョン医療臨床研究を推進する恒久的な研究医養成プログラム
事 業 責 任 者	秋田大学医学系研究科長・医学部長 羽瀧 友則
事 業 の 概 要	
秋田大、弘前大では薬物の遺伝情報を加味した TDM 投与量設計を行い、グローバルに発信、複数の薬物血中濃度測定を保険承認に繋げてきた実績がある。今後優れた遺伝・TDM 統合臨床研究の先進化には、電子カルテ内の情報を直結してデータベース化できる仕組みや、基礎と臨床の両面に精通した臨床研究医の養成が必須である。本事業では以下の2つの柱を実現する。 ①電子カルテからの臨床情報やデータを素早くデータベース化し臨床研究医に提供するシステム構築。ゲノム解析と薬物血中濃度測定システムを統合し、研究医が容易に研究実施できる体制を整備。 ②『臨床研究医養成センター』設置、学部学生時代から研究室配属、リサーチドクター養成キャンプ、学会発表や国際誌での論文発表等で基礎から臨床へのトランスレーション研究志向をもった研究医を養成する。 ①②により、先端的遺伝・TDM による統合臨床研究と研究医養成の持続的拠点となる。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
○既に臨床現場に実装している臨床研究であり、領域横断的な分野であること。 ○遺伝情報により薬剤の TDM の違いを測定するというのは非常に興味深い試みである。 ○既に類型化されている方法を用い、薬剤を変える事で研究成果のアウトプットが生みやすい構造になっている。 ○トランスレーショナル志向性を持つ研究医の養成の案が示されており、効果が期待できる。 ○電子カルテから臨床データの抽出が容易になり、様々なアウトプット、アウトカムが期待できる。 ○指導医・医療者間のデジタル教育ネットワーク構築による FD の実施、デジタル教材作成などのデジタル教育の推進は評価できる。 ○既に先進デジタル医学・医療教育学講座を設置しており、業務及び教育の効率化を図られている点が評価できる。 ○事業成果の普及について具体的に記載されており期待できる。 ○Dr. JOY の導入実績があり、更なるタスクシフトの推進が期待できる。 ○臨床研究医養成センターの継続、遺伝・TDM 研究プロジェクトの具体的な目標も記載されており、事業の継続が期待できる。 ○各年度末に行うリサーチドクター養成キャンプの開催は優れている。 ●北東北に限らず広く全国のモデルケースになるような内容となることを期待したい。 ●指導的立場にある医師の研究時間の確保に関する記載もあるのが望ましい。 ●電子カルテからのデータベース化、医療情報クラウドとして管理されるが、アクセス、セキュリティ管理についても配慮することが望ましい。 ●学部学生使用による倫理的教育についても配慮することが望ましい。 ●連携校以外の施設への共同研究も要望を待つのではなく、積極的に推進することを期待したい。 ●臨床データの抽出が容易になることが、臨床医の研究効率化にどの程度影響を及ぼすのか明らかにして欲しい。	